

秀麗富嶽十二景：扇山（1138m）～百蔵山（1003m）

齊藤 整紀

●始めに

昨年の今頃、血管と骨膜の病気からの体力低下を受けて、リハビリ山行を繰り返した。今年はコロナ禍の中、在宅勤務と加齢による体重増加と体力低下対策が必要になった。今回は、人気の縦走を企画。昭文社地図のコースが目標である。

●2020年11月21日（土） 快晴

●コースタイム

四方津駅 8:34（バス）⇒8:57 犬目 9:05→扇山
10:35～55→宮谷分岐 12:00→百蔵山 12:40～
13:10→展望台 13:35～40→百蔵登山口バス停
14:25→14:55 猿橋駅

昨日の荒れ模様から一転、快晴。しかし車窓からの山の端には雲が残る山もある。富士山も東に雲が掛かる。扇山～百蔵山ハイクは何度か経験あり、四方津、梁川、鳥沢、猿橋のJR4駅のどこからアプローチして、何処に下りるか悩む。縦走ならば、一番奥までバスで上る四方津～犬目から入り、駅まで歩く距離の短い猿橋コースが良い。朝、四方津駅で下車。20号沿いのバス停で10人程が乗車。高度が上がり富士山も間近に見える。やはり東に雲が乗っている。6人のパーティから「頂上に着くまでもって！」の声も。犬目のバス停で、徒歩の一人を加えた7人のパーティは、平均年齢は高いが纏まりが良かったため、ペースメーカーに利用させてもらう。犬目は葛飾北斎の富嶽三十六景の「甲州犬目峠」で旅人と富士山が描かれた付近で、前回それらしき場所を確認した。人気のハイキングコースだけに径は整備され、落ち葉が積もり、気持ちが良い。1時間程後ろに付けていたが、彼らが休息時に追い抜き自分のペースを上げた。

扇山の広い山頂はかなりのハイカーが富嶽7番の景色を楽しんでいる。東側の雲は残るものの午前中の空気は爽快！



百蔵へ向かう下りは、落ち葉の急坂や長いアップダウンの径が続く。そこで先程の7人のパーティのうち、バス停まで歩いてきた女性が、扇山で6人から離れ、一人百蔵に向かってきたが、大きなお尻が安定し、あっという間に視界から消えた。

百蔵山山頂に着いた頃は、富士山の周りからは雲がすっかり消えている。展望は富士が近い分迫力がある。木々の邪魔のないスペースもあり、扇山よりも頂上の見晴らしを楽しむ人が多い。



御正体、丹沢連峰、大山も美しい。百蔵山からの下りは、急坂を避けて、福泉寺方向に下り、途中左折、猿橋駅に向かった。尾根の途中、岩殿山からの景色に似た展望台で一息ついた。径は西日の差す明るく温かいもので快適。

急斜面に建つ家々の庭の木々は色鮮やかである。百蔵山登山口バス停を過ぎ、運動公園を下り、中央道の高架を潜って、橋を渡ると猿橋駅は近い。14時55分に到着。結局、5時間55分掛ったことになる。休憩時間を除くと、5時間になり、昭文社のコースタイム5時間20分と遜色ないことになる。大分回復し、歩けるようになったようだ。（了）